

# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 湯川 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

#### (2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

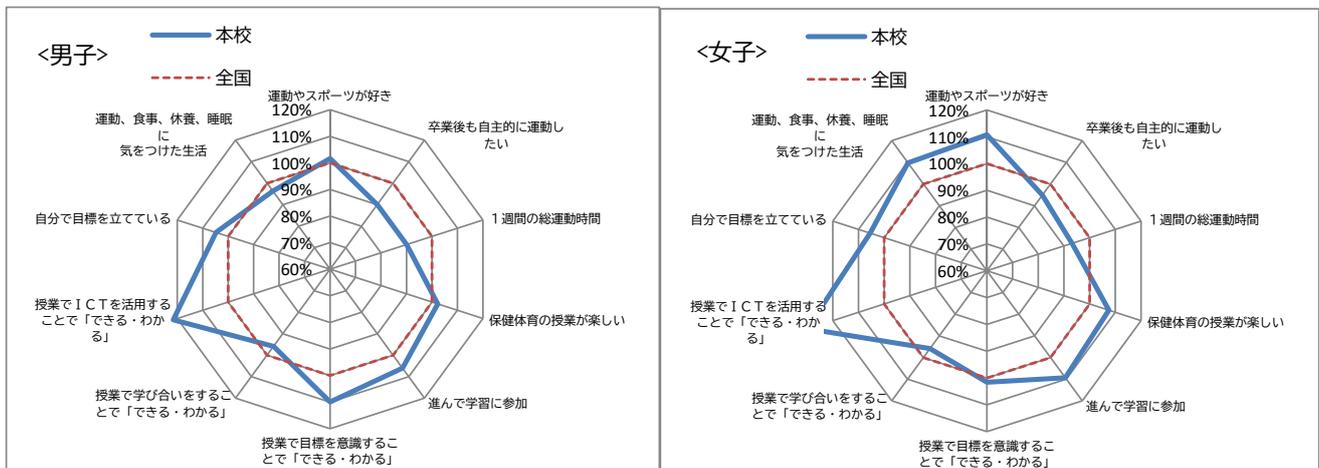
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.95	26.09	45.12	51.64	409.25	78.82	8.00	197.51	20.74	42.2
本市	29.68	26.06	46.16	52.78	410.16	81.09	7.88	199.92	20.42	43.36
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	△	○	○	○		○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.70	46.99	45.74	309.66	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58
本市	23.73	21.88	47.43	46.70	309.06	52.42	8.84	170.22	12.10	49.03
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	△	○	○	○		○

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査レーダーチャート



#### 質問調査の結果分析

本校の生徒は男女とも、運動が好き、保健体育の授業が楽しい、進んで学習に参加しているが全国を上回っている。一方で、卒業後も主体的に運動したいおよび1週間の運動時間は全国を下回る傾向があり、授業内の意欲に比べて学校外での継続に課題が見られる。男子は目標設定が全国を上回っているため、これを放課後の運動機会の確保へ結び付ける支援が必要である。女子はICT活用や生活習慣が全国を上回っているため、授業での前向きさを家庭・放課後の運動習慣へつなげる取組が求められる。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本校は「授業が楽しい」「進んで学習に参加している」が全国を上回る強みを生かし、単元のねらいと学習目標を共有する授業づくりを進める。男女の特性を踏まえ、動画分析や学習記録による振り返りを取り入れ、技能の定着を図る。協働的な学びを広げ、主体的な取組を支える授業改善を全校で推進していきたい。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

週あたりの運動時間と卒業後の運動継続意向が全国を下回る課題に対し、生徒に体力テスト結果をICTで可視化させ、自己データを分析させて弱点を明確にする。その上で、改善に適したトレーニングや補助運動を選定させ、プレゼンで計画を共有することで、意欲と見通しをもたせる。授業内で自分に合ったメニューを確立させ、家庭・放課後でも継続して取り組ませたい。